

日本とヨーロッパの昔話

第1回講座終了後に受けた質問への回答

9月14日（日）に行われた「日本とヨーロッパの昔話」第1回講座に対していただいた質問の回答を以下掲載します。回答が遅くなりましたこととお詫び申し上げます。

皆様からいただいた質問は、個人情報を抜いたうえ、質問にあたる部分だけ抜粋し掲載しています。また、一部表現などに手を入れさせていただいている場合がありますのでご了承ください。

【小澤俊夫先生への質問】

質問 昔ばなしの再話について、小澤先生の編集（実際の聞き取りからどの言葉を選び、捨てるのか）についての基本理念をお伺いしたいです。特に現代～未来に昔ばなしを残していく、という観点から、「ここは絶対に変えてはいけない」「ここはある程度現代風になっていっても問題ない」という対立軸からご教授いただけますと幸いです。

回答 昔話には独特な語り口があり、基本的にはその語り口に沿って再話をする必要があります。ただ、どう再話するかはケースバイケースで考えないといけない場合もあり、一概にはこうだというのは難しい面もあります。昔話の語り口についてはマックス・リュティが『ヨーロッパの昔話』（岩波文庫）で詳しく論じています。まずはそちらを読んでみてください。リュティの本は難しいので、拙著『昔話の語法』（福音館書店）を読むと分かりやすいと思います。

質問 民謡についての先生のお考えもお伺いしたいです。

回答 民謡はメロディーと歌詞が一体としてあるので、昔話を再話するのとは異なるものと考えています。つまり、歌詞だけを抜き出して再話するというのは難しいです。まずは、メロディーを含めて、そのまま覚えるのがいいと思っています。

【間宮史子先生への質問】

質問 ひとつ、私の理解が及ばなかった点についてご質問です。西洋の話の「魔法から解放」というテーマがキリスト教的である、といった趣旨の解説があったと思うのですが(違っていたらすいません)、これに関しては、どういう意味なのでしょう？「原罪」=悪いこともしていないのに最初から呪われている、といっ

たイメージなののでしょうか？ それと付随するかもしれないのですが、グリム童話は、もちろん神聖ローマ帝国の成立からも何百年も経っている時の話だとは思いますが、ゲルマン民族の神話や昔話とは切り離されているものなののでしょうか？ 私(ただの歴史好きの一般人) の理解では、そもそものゲルマン的なものとキリスト教的なものは価値観を共有してないと思います。昔話には魔法や魔女が登場しますが、魔女狩りを行ったのはキリスト教です。その点においても、グリム童話における「キリスト教的なもの」についてが何であるのか、補足的に教えていただきたく存じました。

回答 講義では次のようにお話ししました。ヨーロッパの動物婿譚においては、動物は魔法をかけられた人間であり、娘と動物の婚姻と思われたものは人間同士の婚姻である。魔法をかけられた者が動物の姿から解放され、人間の姿を取り戻してハッピーエンドとなる、つまり、魔法からの救済が話のテーマになっており、キリスト教の救済の観念が世俗的な形であらわされていると考えられる。このことは、第3回(1/25)の講義「異類婚姻譚②」で扱うヨーロッパの動物嫁譚にも共通します。

昔話は独特な語り口をもっています(小澤先生の回答をご参照ください)。「理由づけや説明をしない」のもその特徴のひとつで、動物であった人間がなぜ魔法をかけられて動物になっていたかは語られません。また、「中身や実態を抜いて語る」特徴があり、「キリスト教的なもの」についても、その中身や実態は抜かれて語られます。グリム童話やヨーロッパの昔話には魔女や悪魔が登場しますが、魔女や悪魔が本来もつ意味や内容は抜かれ、登場人物として主人公と関わり行動するだけです。マックス・リュティは『ヨーロッパの昔話』で「昔話の図形的登場人物は内面的世界も周囲の環境ももっていないし、先祖や子孫との関係もないし、時代との関係もない」と述べています。

グリム童話とゲルマン民族の神話が切り離されていると言いきることはできませんが、グリム童話を始めとするヨーロッパの昔話の起源については、たとえば、ドイツの昔話研究者ハンス＝イェルク・ウターは次のように述べています。「ヨーロッパの昔話の大部分は、過去二～三百年前に遡ります。わずかなものだけが、その構造からみてより古く、中世以前に由来するのではないかと考えられます。ドイツの昔話の出所や出典は、しばしば、世界的に普及した物語文学のなかに見いだすことができます。ですから、題材、タイプ、モチーフ構成はドイツ特有のものではなく、ヨーロッパ共通の文化財といえます。」

質問 例えば蛇婿のお話で、人間が蛇になってハッピーエンド、という形のものはあるのでしょうか？ 変身せずとも、そのまま夫婦生活をおくり幸せに暮らしました、というようなお話がありましたら教えていただきたいです。

回答 あります。たとえば「蛇になった娘」では、娘が蛇になり蛇の世界(池)に行くので、娘と蛇との婚姻が成立します。このような話については、第4回(3/22)の講義「異類婚姻譚③」で扱います。

質問 蛇婿の例ならば、人間が抵抗せず水中に入り、人間のまま生きることはあるのでしょうか？ それともそのまま死んでお終いなのでしょうか？

回答 上記と関わりますが、蛇婿の話で、人間が人間のまま蛇の世界（水中）に行くことはない、といえます。

質問 「カエルの王さま」「若い王女」において、カエルから王子に戻る条件は何だったのでしょうか？

回答 「カエルの王さま」では、王女が蛙を（ベッドに入れず）壁にたたきつけること、「若い王女」では、王女が猪と一緒にいくこと、これらが、蛙や猪であった王子が人間の姿を取り戻すことにつながります。

質問 「異類婚姻譚」の中で例えばカエルがカエルのまま、人間が人間のままといったように、異類のままハッピーエンドになるお話は少ないのでしょうか？

回答 日本とヨーロッパの異類婚姻譚には、人間と異類がそのままの姿で結婚しハッピーエンドを迎える話はないといえますが、それ以外の文化圏の異類婚姻譚には、人間と異類がそのままの姿で結婚する話があります。小澤俊夫著『昔話のコスモロジー ひとと動物との婚姻譚』（講談社学術文庫、1994）〔復刻版：小澤昔ばなし研究所、2014〕には、そのような話も取りあげられていますので、参照されるとよいと思います。

【小林将輝先生への質問】

質問 ミステリー小説を読むようなお話で大変興味深かったです。福沢諭吉がグリム童話について何を考えていたのかなど想像するとワクワクしました。その上で、大変気になったことがありました。昔話とは、口伝の文化であり、記録に残しておくことができなかつたために研究が難しかったのだと思います。それに対して、今回の研究はまさに文献と記録を精査することでなされているものだと思っております。もちろん、今回の講義のテーマ的にも、そのような研究手法でなされるべき研究だと認識しております。ですが、まさに口承でしか成り立たない昔話と、文献や記録に基づいたアカデミックな研究との対比について何やら複雑な思いを抱いたもの事実です。うまく言えずに恐縮ですが、私のこのモヤモヤの気持ちに、何かアンサーをいただけますと幸いです。

回答 グリムに関係する研究は多岐にわたっていて、グリム童話や昔話という文学を対象とする研究が一つ大きな研究領域としてあります。そこでは、マックス・リュティの理論や構造主義研究のような文学の様式や構造を分析する研究がありますが、昔話のような口伝えの文学の特性上、現場に行き語り手からお話を聞くというフィールドワークによる研究対象へのアプローチもあり、そこは民俗学の分野になると言えます。私が講義で取り上げたのは、グリム兄弟という伝記に関わる事柄なので、手紙や日記、公式の記録など残された資料を使う歴史学的な手法を取っていますが、一般的には文学研究の中でいう作家研究の分野です。(グリム兄弟の研究は、ドイツでは普通にグリム童話と一緒にまとめられていて、いわゆる「グリム学」のようなものがあります)

答えになっているかわからないのですが、今はそれぞれの研究者がそれぞれの領域で研究するという専門化が進み、細分化している現状があり、それぞれの分野において研究手法が異なっているという事実について、私はあまり違和感を感じていないというのが正直なところです。ただ、小澤先生などは、時代的な背景から、リュティの理論を使いつつ、農村に出向き、現地の人からお話を聞きとるといったフィールドワークも行っていたので、もしかするとそのあたりのもやもや？は少なかったかもしれないと思っています。なお、グリム兄弟が専門としている領域は、文学、文献学、民俗学、言語学、神話学、法学と多岐にわたっていますが、これも時代的な背景によるものです。

質問 また、これは小林先生だけでなく、他の先生に伺うべきことかもしれないですが、これまで/これからの昔話研究における、音声や映像の活用について、教えていただけますでしょうか？ 小澤先生の時代には難しかったかもしれないですが、今はスマホで実際の語りの姿を記録することも容易です。と言いますのも、実は私は YouTube 動画の制作などを行っている、映像制作会社のものです。研究分野でもフィールドワークの際での、音声や映像の記録が広まり、こうした講義でも、実際の昔話の語りを見聞きしながら学習することができれば、受講者の理解と実感にも相当寄与することができるかと考えております。大袈裟に言うと、これからのフィールドワーク研究者の方が一番初めにすべきことはカメラとマイクを使いこなせることではないかと思っています。なのですが、映像や音声メディアの活用について、研究者の方々はどのようにお考えでしょうか？

回答 口承文芸研究および昔話研究においても、映像や音声メディアは活用されるべきですし、活用されていかなければならないと考えます。私の講義では文字化された昔話テキストを扱いますが、実際の「語り」は、文字では表わせない様々な面(声の調子、イントネーション、間の取り方、語りのリズム、身ぶり、手ぶりなど)をもっています。

小澤昔ばなし研究所から次の DVD が刊行されています。

小澤俊夫監修『遠野の昔ばなし サツ・ミヤの語りの世界 復刻版』日本記録映画研究所、2009年
また、日本口承文芸学会では、2021年に「昔話の録音音源の保存と活用」というシンポジウムが開催されています。その内容は学会機関誌『口承文芸研究』第46号（2023年3月発行）に収められていますが、発行から3年後（2026年）に学会HPに公開されることになっていますので、会員でなくても読むことができます。（問宮）

【加藤耕義先生への質問】

質問 問宮先生の講義もあわせて、私が今回、例示された話を見ていて驚きましたのは、グリム童話の話がお姫様や王子様がほとんどなのに対して、日本の話には出てこないという点です。これは日本の昔話と、ドイツ(あるいは西洋)の昔話との、一般的な違いなのでしょうが？
また、もしそうであれば、その理由について教えていただきたいです。（初心者質問かもしれず恐縮です）

回答 確かにグリム童話には姫や王子が多く登場します。日本には王子はいないので、代わりに殿様や侍や長者が出てきます。グリム童話ではほかに、愚か者、きこり、王子、百姓、楽士、継子、なども出てきます。また日本の昔話ではほかに、愚か者、お爺さん、お婆さん、一寸法師、小僧、若者、きこり、などもよく出てくる登場人物です。

質問にあったように、グリム童話の王子や姫に比べると、日本の昔話では殿様や姫が主人公の話は多くないかもしれません。文化圏によって登場人物や物に違いは出てきますが、共通点もあります。

その共通点とは、グリム童話においても日本の昔話においても、孤立的な人物が登場しているという点です。これはリュティ理論からひもとくことができます。マックス・リュティ著『ヨーロッパの昔話』（岩波文庫2017年）の90ページ以下を見ると次のように書かれています。

「昔話の抽象的様式の個々の要素を注意してみると、昔話には孤立性が支配していることがあきらかになる。昔話はまれにしかないもの、高価なもの、極端なものをこのむ。それらはすなわち孤立したものである。金と銀、ダイヤモンドと真珠、ビロードと絹、さらにひとり子、末の息子、ママ娘や親なし子などは孤立性の発現である。王様、貧乏人、ばか者、年とった魔女と美しい王女、白癩頭の男と金髪の男、灰かぶり、うば皮娘、裸で追放された娘、輝くばかりの着物をきた踊り子なども同じく孤立性の発現である。」

リュティの理論では、昔話の登場人物は社会や故郷と関係を持たない孤立した存在であり、旅立つことによってさらに孤立していくので、敵対者や援助者など、様々な存在と結び付く可能性を持っているということが説明されます。小澤俊夫は、「昔話に王さまや殿さまが好んで語られているのは、〈中略〉昔話が

まれなもの、したがって孤立しているものを好むからなのです。ひとつの国に王さまや殿さまはひとりしかいません。その意味で王さまはまれであり、孤立しています」(小澤俊夫著『昔話の語法』343ページ)と述べています。

さらに小澤俊夫は、リュティの「孤立性」の理論について、「そのおかげで(孤立性のおかげで)昔話は、聴く人に非常にはっきりした印象をあたえることができます」(『昔話の語法』243ページ)と述べているように、昔話が物や登場人物を孤立的に描くのは、耳で聞く文芸の特徴であることを指摘しています。

【誰が回答してもかまわない・全講師に宛てた質問】

質問 グリム童話についてもきちんと読んだことがなかったのですが、出版社や訳者などたくさんありすぎて、どのバージョンの書籍がオススメかなど、教えていただければ幸いです。

回答 私(間宮)は大学の授業では以下のものを勧めています。

小澤俊夫訳『完訳グリム童話—子どもと家庭のメルヒェン集—』I II ぎょうせい 1985年

小澤俊夫監訳/小澤昔ばなし研究所再話『語るためのグリム童話』全7巻 小峰書店 2007年

金田鬼一訳『完訳 グリム童話集』全5冊 岩波文庫 1979年(改版)

関敬吾・川端豊彦訳『完訳 グリム童話』I II III 角川文庫 1999年(復刊)

高橋健二訳『グリム童話全集』全3巻 小学館 1976年(文庫版は全5巻)

野村滋訳『完訳 グリム童話集』全7巻 筑魔書房 1999年

質問 研究対象としてではなく、皆さんが好きな昔ばなし、伝説があれば教えていただきたいです。

回答

小澤 昔話：三年寝太郎(日本の昔話)、灰かぶり(グリム童話21番)

間宮 昔話：かしこいお百姓の娘(グリム童話94番)、鉄のハンス(グリム童話136番)

伝説：ヴァインスベルクの女たち(『グリム ドイツ伝説集』493番)

小林 昔話：ろばの子(グリム童話144番)、わらと炭とそらまめ(グリム童話18番)

伝説：リューベツァールの伝説(ムゼーウス『リューベツァールの物語—ドイツ人の民話』)

加藤 昔話：カエルの王さま(グリム童話1番)

伝説：シュタウフェンベルクの殿 ペーター・ディムリンガー(『グリム ドイツ伝説集』528番)